

# 国語科学習指導案（2年2組）

1 単元 対比して書こう（教材名「ガイアの知性」）

## 2 単元設定の理由

### (1) 教材観

#### ①学習指導要領上の位置付け（身に付けることができるよう指導する事項）

〔知識及び技能〕

(2)ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

B (1)イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章構成や展開を工夫すること。

C (1)エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

#### ②単元の価値

本単元は、単元の課題を「『ガイアの知性』の構成や展開の特徴を生かして、意見文を書こう」とし、評論文「ガイアの知性」を読む学習で捉えた「対比」という知識・技能（学習用語）を活用して意見文を書く学習を通して、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えたり、それらを工夫して表現したりする力を高めることを目指したものである。本単元で扱う「ガイアの知性」は、従来の考え方とは異なる「知性」の在り方について、筆者の体験的な知見に科学的な事例を重ねて論証することで、読者を納得させ、新たな考えをもつように働きかける文章である。構成面では、第1大段落の「鯨と象は」「あの大きな体で（中略）生き続けてくれた」と、最終段落の「だからこそ彼らは、我々人類よりはるか以前から、あの大きな体で」「生きながらえていたのだ」との呼応や、「私たち人類にある重大な示唆を与えるために」と、「我々人類は、今、もう一方の『知性』の持ち主である鯨や象たちからさまざまなことを学ぶことによって、真の意味の『ガイアの知性』に進化する必要がある」との呼応、また、第1大段落における、次大段落で解明に取り組むための課題の設定、第2大段落では最終段落で主張を行うための根拠の確定など、意図的な論理構成、人間の「知性」と鯨や象の「知性」の対比的な内容構成などが特徴となっている。また、表現面では、人間の「攻撃的な知性」や、鯨や象の「受容的な知性」などの抽象度の高い言葉、「正確に理解」「高度な能力」「制御」「調整」など鯨や象の「知性」の価値を高めるための評価的な語句が多く見られる。以上の点から、「ガイアの知性」は、対比を主とした文章構成や論理の展開の工夫や、具体と抽象など情報と情報との関係について学習するために適切であると考えられる。

本単元において、「ガイアの知性」で捉えた構成や展開の特徴を生かして意見文を書くという言語活動を取り入れることは、評論文「ガイアの知性」を読むことの必然性を生み、「書くために読む」という目的意識をもって読む学習に取り組むことができる。さらに、読むことと書くことを連続させた単元構成を行うことにより、文章を読む学習を通して身に付けた知識や技能を生かす実の場として文章を書く活動があることで、知識や技能をより定着させることができる。今回は、「ガイアの知性」を読む学習で、文章構成の図式化を通して、構成の特徴である「対比」を捉え、その技能を用いて意見文を書くことで、「対比」についてより深く理解することができると思われる。

#### ③単元の系統性

- ・第1学年の題材「電子レンジの発想」「言葉のゆれを考える」「花の形に秘められたふしぎ」では、筆者の考えとその根拠に注意して文章の構成や展開を捉える学習を通して、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える力を身に付けてきた。
- ・第3学年の題材「『新しい博物学』の時代」では、文章における論理の構成や展開、文脈における語句の効果的な使い方などを考える学習を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する力を高めていく。

## (2) 生徒観（男子 17 名、女子 17 名 計 34 名）

- ・「書くこと」の文章構成や展開を工夫することについては、読み手に分かりやすい文章になるように、「序論－本論－結論」や「尾括型」を意識して書くことができるようになってきている。しかし、接続する語句を適切に用いることができなかつたり、文同士の論理的なつながりが弱かつたりするものも多く見られる。これは、読み手に分かりやすい文章になるよう、文同士の関係、段落の役割や段落相互の関係を意識して書く力が十分に身に付いていないことが原因である。
- ・「読むこと」の文章の構成や展開を捉えることについては、1 年次より主として説明的な文章において、「文章構成の図式化」に取り組んでおり、文章全体を「序論－本論－結論」に分け、キーワードやキーセンテンスを取り出して、それぞれの関係性を線や矢印で結び付けたり、枠で囲んだりして整理する経験を重ねてきている。どの生徒も自分なりにまとめることができるようになってきているが、取り出す文が長くなってしまい、図式化を仕上げるまでに時間がかかってしまう様子が見られる。これは、文章の中の大事なところをつかみ、要約する力が十分に身に付いていないことが原因である。

## (3) 指導観

- ・つかむ過程では、「『ガイアの知性』の構成や展開の特徴を生かして、意見文を書こう」という単元の課題を提示することにより、生徒が読む目的を明確にもち、見通しをもって単元の学習に取り組むことができるようにする。
- ・「読むこと」に関わって追究する過程では、単元の課題を常に掲示することで、「よりよい意見文を書くために『ガイアの知性』から学んでいるのだ」という意識をもって学習に取り組むことができるようにする。
- ・「ガイアの知性」の学習において意味が分からない言葉については、「言葉ノート」にメモし、自主勉強として意味や用例を確認するよう促すことで、新たな語彙を増やすことができるようにする。
- ・文章の展開や構成の特徴を捉える学習では、これまでの説明文の学習でも取り組んできた図式化という手法を用いて文章構成や論理の展開を分析する。その際、まず筆者の主張である「我々人類は（中略）真の意味の『ガイアの知性』に進化する必要がある」という部分を出発点として、そこから逆思想的につながる言葉や文を捉えながらまとめていくことで、文章の大事なところを捉え、端的にまとめる力を高めることができるようにする。
- ・生徒の様々な捉えの中から、人類の「攻撃的な知性」と象や鯨の「受容的な知性」の対比構造が存在することに収束させることで、学習用語として「対比」を習得することができるようにする。さらに、その効果を考えることで、自分の意見文に「対比」を使ってみたいという意欲が高まるようにする。
- ・「対比」を生かした意見文を書く学習では、「動物」「草花」「果物」などのテーマ例やさらに具体的に「犬と猫」「レモンとみかん」などを示し、どの生徒もスムーズに文章を書く活動に入ることができるようにする。
- ・「ガイアの知性」における対比を使った論の展開を「基本形」として示したり、題材の対比関係がまとめやすくなるよう工夫したワークシートを用いたりすることで、どの生徒も段落相互の関係を意識した読み手に分かりやすい意見文を完成させることができるようにする。
- ・毎時間課題について振り返る場を設けることにより、その時間に何を学んだかを自覚し、次時の授業や他題材にその学びを生かすことができるようにする。

## 3 単元の目標

文章全体を図式化することを通して文章構成や論理の展開を捉え、効果的に「対比」を用いて意見文を書くことができる。

## 4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (4 / 5)

(1) 目標

「対比」を使って、段落相互の関係を明確にして意見文を書くことができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p><b>1 本時の課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時は、複数の事柄を比べることを「対比」といい、自分の主張を分かりやすく伝えることができることを学んだ。</li> <li>本時は、「対比」を使って意見文を書くのだな。上手にかけるか不安だな。</li> </ul>	<p>○単元の課題「『ガイアの知性』の構成や展開の特徴を生かして、意見文を書こう」を改めて掲示することにより、これまで、意見文を書くために読む学習をしてきたこと、その中で学んだ「対比」という技能を使って意見文を書くことを確認し、学習のつながりを意識できるようにする。</p>
<p><b>課題：</b>伝えたいことがよく伝わるよう、「対比」を使って意見文を書こう。</p>	
<p><b>2 比べるものを決めて対比関係を整理するメモを作り、ペアで検討し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例を参考にして題材を決めよう。</li> <li>もうすぐ体育大会だから、徒競走とリレーを対比してみよう。</li> <li>どうやってメモを作っていけばよいか分かった。徒競走とリレーの違いをじっくり考えてみよう。</li> <li>友達に見てもらったら、よく分からないところがあったみたいだ。客観性が足りなかったな。もう一度考えてみよう。</li> </ul> <p><b>3 メモ作りや友達との交流を通して気付いたことを、全体で共有する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなの意見を聞いて、対比の観点をそろえることが大切だと分かったよ。</li> </ul> <p><b>4 「対比」を用いて意見文を書く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容ごとに段落を分けて、観点が対応するように書いていこう。</li> <li>三段落目の接続語は「だから」ではなくて、「その意味では」の方が自然だからこちらにしよう。</li> </ul>	<p>○比べるものがすぐ決まらない生徒がいることが予想されるため、「動物」「スポーツ」などのテーマ例や「春と秋」「平仮名と片仮名」などの具体的な題材例を示し、対比関係を整理する活動にスムーズに入ることができるようにする。</p> <p>○初めにメモ作成の手本を示すことにより、生徒が活動内容をよく理解し、見通しをもって集中して個での活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>○メモをペアで検討し合うことにより、読み手にとって伝えたいことがよく伝わる対比になっているかを確認できるようにし、必要に応じて追加・修正するよう促す。</p> <p>○生徒の発言をまとめ、対比の観点がそろっていること、対比している内容が客観的であることなどが大切であることを、全体で共有することができるようにする。</p> <p>○どの生徒も段落相互の関係を明確にした意見文を書くことができるよう、「ガイアの知性」から学んだ、対比を用いた意見文の基本形を提示する。</p> <p>○書くことに自信がある生徒には、「独自性の発揮」「接続語の工夫」「具体的な内容の追加」を促し、書く力の更なる向上を目指す。</p>
<p><b>5 本時の学習内容を振り返り、今後の学習への見通しをもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次回は、互いの作品を読み合ったり、単元のまとめをしたりするのだな。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現】</b> 「対比」を使い、段落相互の関係を明確にして意見文を書くことができる。(ワークシート)</p>
<p><b>&lt;振り返り&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自転車と徒歩を比べて書いた。徒歩の良さを伝えるために、自転車との違いを観点が対応するように書くことができた。</li> <li>「ガイアの知性」で学んだ「対比」を使うことで、自分の考えを分かりやすく伝えられたと思う。</li> </ul>	

**<「思考力、判断力、表現力等」育成のための具体的な手だて>**  
読む活動で学んだことを「書くこと」に生かす学習過程の工夫

指導と評価の計画 国語科 2年 単元「対比して書こう」(全5時間計画)

目標	文章全体を図式化することを通して文章構成や論理の展開を捉え、効果的に「対比」を用いて意見文を書くことができる。				
評価規準	<p>【知識・技能】 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。「書くこと」において、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 学習の見通しをもって、進んで文章の構成や論理の展開について考え、意見文を書くことに生かそうとしている。</p>				
離	嚮	目標・課題	学習活動	振り返り	評価 (方法・観点)
つかむ	1	<p>◎学習の見通しをもち、本文の構成や展開を生かして意見文を書こうとしている。</p> <p>「ガイアの知性」の構成や展開にはどのような特徴がありそうだろうか。</p>	<p>○「ガイアの知性」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>○グループで感想を伝え合い、共有する。</p> <p>○単元の課題を知る。</p>	<p>☆「ガイアの知性」から構成や表現を学んで、意見文を書く学習だということが分かった。これからの学習で、特徴をしっかりと捉えたい。</p> <p>☆二つの知性を比べているところが特徴かもしれないと考えた。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 学習への見通しをもち、読む活動で学ぶ構成や展開を生かして意見文を書こうとしている。(ノート)</p>
		<p><b>単元の課題：「ガイアの知性」の構成や展開の特徴を生かして、意見文を書こう。</b></p>			
追究する	1	<p>◎文章の図式化を通して、構成や展開の工夫を考えることができる。</p> <p>筆者はどのような工夫をして「読者に伝えたいこと」を説明しているか。</p>	<p>○筆者の主張を確認する。</p> <p>○筆者の主張に至るまでの論理の展開を図式化し、構成や展開の特徴を捉える。</p>	<p>☆図式化してみて、人間の「攻撃的な知性」と鯨や象の「受容的な知性」を比べていて、人類は鯨や象から学んで、両方の知性をもつことが必要だと言っていることが分かった。</p> <p>☆人と鯨や象、「攻撃的な知性」と「受容的な知性」という二つのことを比べていることが特徴だ。</p>	<p>【思考・判断・表現】 文章の構成や論理の展開について考えることができる。(発言、ワークシート)</p>
		<p>◎文章を図式化したものを互いに説明し合うことを通して、情報同士の関係について理解することができる。</p> <p>自分の意見文にどのようなことが生かせそうだろうか。</p>	<p>○自分の捉えた構成や展開の特徴について伝え合う。</p> <p>○学習用語「対比」を知り、効果を考える。</p> <p>○対比関係を整理してまとめる。</p>	<p>☆この文章の特徴は、二つの事柄を比べることで、自分の主張を分かりやすく伝えようとしているところだな。複数の事柄を比べることを「対比」というのだな。</p> <p>☆抽象的な言葉と具体的な言葉で比べていることが分かったよ。</p> <p>☆「対比」を使って意見文を書きたい。</p>	<p>【知識・技能】 情報と情報の関係を捉え、「対比」について理解している。(ワークシート)</p> <p>★学習用語「対比」</p>
まとめる	1 (本時)	<p>◎「対比」を使って、段落相互の関係を明確にして意見文を書くことができる。</p> <p>伝えたいことがよく伝わるよう、「対比」を使って意見文を書こう。</p>	<p>○対比関係を整理するメモを作る。</p> <p>○メモを交流する。</p> <p>○「対比」を用いて、意見文を書く。</p>	<p>☆自転車と徒歩を比べて書いた。徒歩のよさを伝えるために、自転車との違いを観点が対応するように書くことができた。</p> <p>☆「ガイアの知性」で学んだ対比構造を使うことで、自分の考えを分かりやすく伝えられたと思う。</p>	<p>【思考・判断・表現】 「対比」を使い、段落相互の関係を明確にして意見文を書くことができる。(ワークシート)</p>
		<p>◎単元全体を振り返る活動を通して、「対比」を用いて文章を書くよさに気付く。</p> <p>この単元で学んだことは何だろうか。</p>	<p>○互いの作品を読み合う。</p> <p>○単元で学んだことを確認する。</p> <p>○学んだことを一般化して理解する。</p>	<p>☆二つのことを比べているので、一方のよさがより際立つな。</p> <p>☆今まで「対比」を意識して文章を書くことはなかったけれど、自分の考えを伝えるための論理的な文章を書くのに有効だと思った。また使ってみよう。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 学習を通してできるようになったことを自覚し、他の場面に生かそうとしている。(ノート、発言)</p>